

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
担当課長名：服部 卓也

事業名	連続立体交差事業 JR東海道本線・JR御殿場線（沼津駅付近）	事業区分	連続立体交差	事業主体	静岡県 沼津市
起終点	自：静岡県沼津市大岡 至：静岡県沼津市桃里	延長	5.3km		
事業概要					
<p>本事業は、JR東海道本線・JR御殿場線の沼津駅付近の約5.3kmにおいて鉄道を高架することにより、13か所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。</p>					
H15年度事業化	H14年度都市計画決定	H16年度用地着手	令和3年度工事着手		
全体事業費	約1,034億円	事業進捗率	約5%	供用済延長	— km
計画交通量	165,937台時/日（踏切交通遮断量）				
費用対効果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 1.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 752/959億円 事業費：751/958億円 維持管理費：1.4/1.4億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,056/1,056億円 移動時間短縮便益：982/982億円 走行経費減少便益：59/59億円 交通事故減少便益：15/15億円	基準年 令和4年	
感度分析の結果					
<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.0~1.2（交通量±10%） (残事業) 交通量：B/C=1.2~1.5（交通量±10%） 事業費：B/C=1.0~1.1（事業費±10%） 事業費：B/C=1.2~1.5（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.0~1.1（事業期間±3年） 事業期間：B/C=1.3~1.5（事業期間±3年）</p>					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・交通環境の改善：交差道路の整備による交通の円滑化、踏切事故の解消、踏切や既設アンダーパスに起因する渋滞や冠水、事故の解消、歩行者・自転車の円滑な移動経路の確保 ・土地の有効利用：鉄道施設跡地の都市的土地利用、高架下空間の土地利用 ・にぎわいの創出：南北市街地の一体化、駅周辺の都市機能・居住機能の集約 ・防災性の向上：緊急車両の移動性向上、街路整備の幅員確保による延焼防火性の向上 ・環境負荷の低減：踏切待ちの解消によるCO₂・NO_xの低減、E&S方式の貨物駅による効率的なコンテナ輸送 					
関係する地方公共団体等の意見					
<p>沼津市より事業の早期完成が図られるよう、要望を受けている（令和4年9月）。</p> <p>本事業は、沼津市が人口減少、少子高齢化に備え、持続可能な都市であり続けるために進めている沼津駅周辺総合整備事業の核となる事業であり、市が目指すウォーカブルでカーボンニュートラルなまちづくりの実現と駅周辺の抜本的な交通課題の解消を図るために必要不可欠である。</p>					
事業評価監視委員会の意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・事業を継続するのが相当である。 ・事業効果の発現が多岐にわたって期待される一方で、事業費が大きく、事業期間も長期にわたるため、沼津市が進めるまちづくりの事業とも連携しながら段階的な事業効果の発現を図られたい。 ・地域住民や関係者との丁寧なコミュニケーションを維持し、事業への理解を深められるよう努められたい。 					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
<p>沼津駅周辺では、駅北拠点開発事業、市街地再開発事業、土地区画整理事業の一部区域が完了するなど、新しい街並みが形成されつつある。</p>					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約99%、事業進捗率約5%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
令和2年度に難航していた貨物駅移転先用地取得完了。高架本体工事に先行して必要な貨物駅施設の移転工事に着手し、令和9年度の新貨物ターミナル供用を目指して事業を推進していく。					

施設の構造や工法の変更等

鉄道事業者との協議や詳細設計の中で、新技術・新工法の活用、施工計画の見直しなどによるコスト縮減を図る。

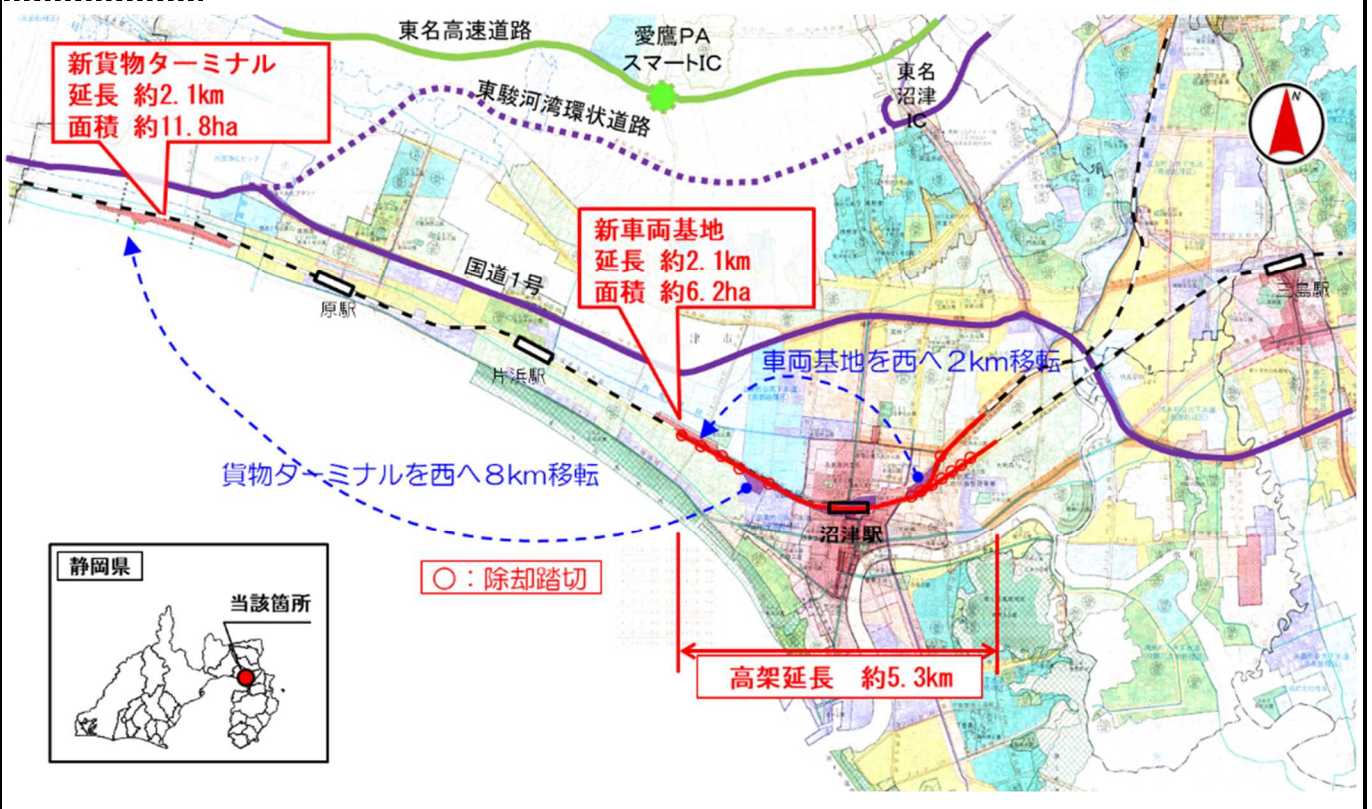
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。